

公立大学法人青森県立保健大学 令和7年度新たな重点的取組

法人の基本的な目標(使命)

- 1 人間性豊かな人材の育成
- 2 保健、医療及び福祉の発展に寄与できる人材の育成
- 3 地域特性へ対応できる人材の育成
- 4 グローバルな視野をもって活躍できる人材の育成
- 5 地域社会への貢献

- ・入試の選抜内容、及び方法の変更
- ・高大連携事業の取組の推進
- ・グローバルヘルスプログラムを開設
- ・第6次カリキュラムの調整と検証
- ・地域で活躍・定着する人材を発掘するための取組の推進
- ・大学院における教育・研究の質保証の強化

教育

- ・研究環境の点検・改善、不正行為防止の取組
- ・研究成果の還元
- ・海外の大学や研究機関との連携・交流の推進
- ・保健医療福祉の現場における外国人支援に資する人材育成方策への取組
- ・受託研究資金等外部資金の獲得

研究

地域貢献

- ・地域定着枠関連事業
- ・専門職の県内定着を促進する事業
- ・専門職向けの研修会の企画・実施

- ・第四期中期計画に係る検討、FDマップの活用・改善
- ・幅広い広報媒体の活用
- ・情報化の推進やアウトソーシングの検討、個人情報保護の理解と意識啓発

自己点検・評価及び業務・財務

取組概要

期待される効果、今後の展望

【入試】入試の選抜内容、及び方法の変更

- ・ 令和9年度入学者選抜に係る変更が効果的なものとなるよう検討を続ける。
- ・ 1) 学校推薦型選抜の枠組みを変更した。
 - ① 地域定着枠をキャリア形成支援枠とした。
 - ② 一般枠を県内人材育成枠とし、一般枠にあった県外者を廃し、一部定員を増やした。
 - ③ 上記一部定員を増やしたことにより、一般選抜後期日程の定員を減じた。
- ・ 2) 学校推薦型選抜の入学試験について
 - ① 県内人材育成枠については、従来的一般枠における小論文を廃し、総合問題を採用する。
 - ② 総合問題は、各学科のアドミッションポリシーを踏まえ、入学後の修学に必要な科学的思考力及び論理的思考力を問う。
 - ③ 総合問題においては、全学科共通問題において英語力を問う。

- ・ 学校推薦型選抜において、地域定着枠をキャリア形成支援枠とした。このことで、学生のキャリア支援と地域社会との結びつきが強化される。そのことにより、地域社会への貢献度が高まると同時に、地域課題解決へ寄与する。
- ・ 学校推薦型選抜において、一般枠を県内人材育成枠とし、定員を増やした。このことにより、県内高校生が高等教育を受ける機会が増える。
- ・ 県内人材育成枠において、従来的一般枠における小論文を廃し、総合問題を採用する。この総合問題は、英語、および科学的思考力と論理的思考力を問う問題になり、高校生が本学をめざすための勉学を提示できる。

【支援】高大連携事業の取組の推進

- ・ 今年度から県内全域の高校2年生を対象に実施する。これを実現するためにオンライン受講や夏季集中講義の形態も導入し、新しい形式で実施する。
- ・ 新しい形式での高大連携事業を広く周知し、高校生が本学に魅力を抱いてもらえるように受講生アンケート等を実施して事業内容等を検討、改善する。

- ・ オンラインや集中講義など多様な授業形態で実施するため、高校生にとっては受講にあたっての利便性が高まる。
- ・ 大学での学修を直接体験する機会が県内全域に拡大されることで、保健・医療・福祉分野への興味関心の高まり、進路選択への効果が期待される。
- ・ 身近な大学として印象づけることで、本学への志願者増につなげたい。

取組概要

期待される効果、今後の展望

【学部教育】グローバルヘルスプログラムを開設

- グローバルヘルスプログラムの開始に伴い、新カリキュラム内における多様性の理解と国際的な視点の学びが4年間をととして確保できるように、科目担当教員と連携しながら計画を推し進める。

- 新カリキュラムの1年目として、学生はGHPをととして国際的な科目を履修することで、卒業までの4年間を見据えた学部教育を受けることができ、多様性が身についた学生が育つことが期待できる。

【学部教育】第6次カリキュラムの調整と検証

- 令和7年度から始まる第6次カリキュラム、いわゆる新カリキュラムにおいては、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを明確化したシラバスにより、適切な運用状況、および教育効果について検証する。

- これにより、新カリキュラムが適切に運用されているのか、および教育効果が高まったのかが検証できる。

【支援】地域で活躍・定着する人材を発掘するための取組の推進

- 中学生・高校生及び保護者に対して、保健医療福祉職への理解を深めるための取組（中学生のためのキャリア発見デー、キャンパスオープンデー等）を継続実施する。幼児から小学生に向けては絵本プロジェクト（読み聞かせ活動）を周知し、推進する。
- 高校生と在学生及び卒業生が協働して地域で働く魅力や保健医療福祉の課題を考えるための取組（中高生ワークショップ等）について継続して実施する。

- 保健医療福祉職の理解と魅力を継続して発信することで、職業選択及び将来的な人材確保に寄与できる。また保護者にも、今日の保健医療福祉分野の幅広い活躍の場について理解を深めてもらうことができる。
- 絵本プロジェクトでは読み聞かせという方法を用いることで保健医療福祉の仕事への親しみと興味関心の醸成が期待される。
- 在学生と卒業生が直接、高校生と触れ合うことで本学の特色や魅力が発信され、本学志願者増に寄与できる。

取組概要

期待される効果、今後の展望

【大学院教育】大学院における教育・研究の質保証の強化

- 令和8年度に開設する新しいCNSコース(老人看護及び感染症看護)について重点的にPRするとともに、同年度から博士後期課程で受け入れを開始する秋入学制度について、予告を行う。
- 新たな専門看護師教育課程(CNSコース:老人看護及び感染症看護)の開設に向け、開設に係る情報収集および検討を踏まえ、必要な申請手続を行うとともに、学生受け入れの準備を進める。
- 令和8年度から新たに始まるカリキュラムのために、令和6年度に研究科委員会内で立ち上げた大学院教育研究質保証専門部会を継続開催し、新カリキュラムの最終案を作成し、関係諸機関に届出等を行う。

- 新しいCNSコースの重点的な周知により、令和8年度開設とともに入学希望者が期待される。必要な申請手続を行い、入試の準備をすすめる。CNSコースの新規開設により、高齢化の一層の進展やグローバル化による新たな感染症への対応など、専門性の高い看護師の養成に寄与できる。
- 博士後期課程の秋入学制度の予告を行うことにより、国内外からの多様な背景を持つ入学希望者が期待される。後期課程入学者数の継続的な確保につながり得る。
- 各学位プログラムに応じたDP、CPにつながる新しいカリキュラムにより、魅力ある大学院として期待され、入学希望者の継続的な確保につながり得る。

取組概要

期待される効果、今後の展望

【研究】研究環境の点検・改善、不正行為防止の取組

- 研究データを適切に管理・利活用できるよう定めた研究データポリシーを公開し、本学の研究者が持続可能な研究活動を行えるように支援する。
- 本学の研究活動を推進し、研究成果を地域社会の文化の向上と国際社会に還元することを目的として、附属図書館と連携してオープンアクセスポリシーを公開し、運用体制を強化して研究成果の普及と活用を促進する。

- 研究データを適切に管理し、その利活用を促進することで、本学の知的資源・財産としての研究データの価値を高めることができる。研究データの利活用によって、新たな応用や研究の進展が生まれることも期待できる。
- オープンアクセスポリシーを公開することで、本学のオープンサイエンスを推進し、研究成果をより多くの研究者や地域の一般の方々と共有が可能になる。これにより、研究成果への関心が高まり、その利活用も促進されることが期待できる。

【研究】研究成果の還元

- 「論文発表推進特別支援助成金」によって掲載された研究論文の内容について、研究者のみならず、本学に興味を持つ入学を高校生等が関心を抱き、理解できるように公表・紹介する。
- 地域の保健医療福祉人材との協働につながるよう研究発表会を開催して、研究成果の社会への還元を継続的に推進する。

- 掲載された研究論文の紹介を通じて、他の研究者だけでなく、地域の産官学金の各界にも関心を広げることができる。さらに、本学の活発な研究活動を公表・紹介することで、高校生の入学意欲を高める効果も期待される。
- 青森県保健医療福祉研究発表会等の開催により、地域の保健医療福祉分野の研究者の学術交流が深化され、より多くの研究成果の社会への還元が期待できる。

取組概要

期待される効果、今後の展望

【研究】海外の大学や研究機関との連携・交流の推進

- ヘルスプロモーション戦略研究センターにおいて、グローバルヘルスプログラムの推進の一環として、米国・ベトナムの各大学との間の連携や交流が円滑に進むよう支援していく。また、学部生や大学院生の交流に加えて、共同研究につながるような研究者間の交流を推進する。

- 両大学との連携や交流を支援することで、学部学生や大学院生は異文化理解を深め、グローバルな視点をもつことが期待される。また、海外の学生や教員との交流を通じて、将来のキャリアや研究につながる可能性も広がる。本学教員にとっても、両大学の研究者と連携・交流を深めることで、ネットワークを構築し、将来的な共同研究へと発展させる可能性を期待できる。

【研究】保健医療福祉の現場における外国人支援に資する人材育成方策への取組

- グローバルヘルスプログラム(GHP)が開始されることから、地域の保健医療福祉関連の国際事業や地域の外国人へのボランティア活動等に対し、GHP活動を支援する。

- GHPを通じて、学生は保健・医療・福祉の現場で外国人支援の必要性を学び、それをきっかけに、国際事業や外国人支援のボランティア活動に関心を持ち、積極的に参加することが期待される。

【研究】受託研究資金等外部資金の獲得

- 科学研究費助成金の獲得のために、ピアレビュー制度を設け、運用する。

- ピアレビューを通じて、科研費の研究計画書はより明確で説得力のあるものになると期待される。この制度を運用することで、科研費の採択率を向上させ、将来的な研究活動の活性化につなげる。

取組概要

期待される効果、今後の展望

【キャリア形成支援】地域定着枠関連事業

- ・ 地域定着枠の学生及び学内での支援体制を充実し、実施する。
- ・ 第1期卒業生が安心して勤務できるよう、連携・協力病院とともに、キャリアサポートプログラムの適切な運用・進捗管理を行う。キャリアサポートコーディネーターが定期的に訪問・面談するほか、卒業生同士の現状報告会、卒業生と在学生との情報交換会等、交流を継続し、地域定着枠のチームワークを継続的に構築する。

- ・ これからの地域に求められる、地域包括ケアの推進に必要な連携能力等を有する看護職の育成と配置が可能となり、青森県の地域医療に貢献する。
- ・ また、ローテート先の看護職との相互交流を推進することにより、お互いの施設の役割・機能をよく知るとともに、自施設の役割・機能を再認識することで、地域包括ケアの一層の推進が期待される。

【キャリア形成支援】専門職の県内定着を促進する事業

- ・ 県内の病院等を対象に、新卒看護職者の県内定着を推進するため、講演、グループワーク、相互交流などの内容で採用力向上セミナーを開催する。これにより職場の内省や発信力を促進し、看護師の県内定着を推進する。
- ・ 保健師の採用に苦慮している県内のへき地等自治体への本学保健師コースの卒業生の就職も含め、県内で働くことの魅力ややりがいに気付きを与えるイベントを実施する。また、前年度に行った意識調査のアンケートを基にスキルアップの支援や保健師の県内就職、定着に向けた体制作りを検討する。

- ・ 採用力向上セミナーに各事業所、採用担当者が参加することで、今までの採用方法を内省し、各事業所の強みやアピールポイントを発見する。また、他事業所との意見交換で、新たな手段の情報や日頃の業務やマネジメントの気づきにもなり、それらを見直すことで採用力の改善につながることを期待する。
- ・ 町村部等に勤務しながらでも、スキルアップできる環境を整えることで、やりがいを持ち地域課題の解決に積極的に取り組む保健師が増える。
- ・ 町村部自治体への就職希望者が増える。

取組概要

期待される効果、今後の展望

【キャリア形成支援】専門職向けの研修会の企画・実施

- ・ 八戸市立市民病院と結んでいる包括的な連携協定の事業として、2025年度からのクリティカルケア分野の認定看護師養成課程の開講・運営に参加し、看護師のキャリアアップを支えることで、県内定着につなげる。

- ・ 地域としては看護職の認定取得でキャリアアップ、認定看護師の元で人材育成することで離職が少なくなることや、地元定着者やUターン者の増加が期待される。
- ・ 大学としては教員のレベルアップ、学術活動の連携や大学院希望者の増加が期待される。また、地域のレベルアップにより、学生の県内就職率向上、卒業生のキャリアアップに寄与すると考えられる。

取組概要

期待される効果、今後の展望

【評価改善】第四期中期計画に係る検討、FDマップの活用・改善

- 令和6年度に行われた第三期中期目標期間終了時見込業務実績評価の結果を踏まえて、第四期中期計画に係る検討を進める。
- 令和6年度に行った2025年度改訂版FDマップの活用状況について確認し、必要時改善を行う。

- 第三期の成果や課題を踏まえ、社会の変化に対応した実効的な中期計画が策定できる。
- 将来を担う教職員参加による中期計画の策定を通し、大学の将来ビジョンを浸透させることができる。
- 本学の求める教員像の周知ができ、各々の自立した目標設定に繋がる。
- より系統的なFDができる。

【広報】幅広い広報媒体の活用

- コンサルテーションをもとに課題を抽出したホームページについて、令和6年度から2か年計画で改修を行う。
- 大学を身近に感じてもらうことを目的とした公式Instagramからの情報発信を、学生ICTサポーターと連携しながら発展的に継続する。

- ホームページの改修が完成し、伝えたい情報をより適切に伝えることができる。
- 公式Instagramからの情報発信で受験生や住民が大学を身近に感じることができる。
- 学生が広報活動に参加することで、教職員学生協働での大学運営ができる。

【総務・財務・情報セキュリティ】情報化の推進やアウトソーシングの検討、個人情報保護の理解と意識啓発

- 費用対効果を勘案した情報化の推進により、事務処理の更なる効率化と正確性の向上を図る。
- インターネット出願の導入
- 窓口のキャッシュレス化
- エンドユーザー（教職員及び学生）に対して、情報セキュリティ、個人情報保護に関わる理解やスキルの向上のための研修や意識啓発を行う。

- 事務処理の迅速化、正確性の向上、利用者の利便性の向上により、大学運営への信頼度が高まるとともに、コスト削減に繋がる。
- クラウド化やBYOD (Bring Your Own Device) 化が進む中で、仕組みの基本的な理解やスキルの向上を促し、情報漏洩等のリスクが軽減される。